日本言語地図
国立国語研究所
LINGUISTIC ATLAS OF JAPAN
NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE

参考地図Ⅰ　調査地点番号地図

Introductory Map　I　Map of the surveyed localities

全国に2400組の2桁の数字が散在している。これが日本言語地図のための調査地点である。この数字は，次に示す〈方言調査基礎図〉のシステムによって定められた。各地点に与えた調査地点番号は，実は，たとえば1234.56のように，6桁の数字によって示される。この数字は，その下2桁の部分である。

方言調査基礎図による調査地点番号のシステム　—　このシステムは，建設省国土地理院発行の5万分の1地形図をもととしている。その理由は，この地形図が，現在の日本国土に対して(1)もっとも詳細かつ網羅的，しかも一般的な地図であり，(2)経度・緯度（経度15′,緯度10′）を正確に示している地図だからである。各調査地点に，地名以外に番号を与えた理由は，言うまでもなく(1)整理の便宜のためと，(2)地名に変更が多いためである。

5万分の1地形図の占める地域に番号を与える　—　地図に示した小さいマス目が，それぞれの5万分の1地形図の占める地域を示す。それぞれに4桁の番号を与えるが，そのためには，まずマス目100箇をあわせて（マス目横10，縦10），一定の地域を限る（経度2°30′,緯度1°40′）。地図ではやや太い経線と緯線によって示した。この大きなワクごとに，それぞれ2桁の数字を与える。第1桁の数字が若いほど北に，第2桁の数字が若いほど西にある（ただし，南西諸島には，再び第1桁に若い数字が現われることに注意）。具体的数字は，おのおの，大きなワクの左上隅に示した。たとえば，北海道北端は07のワクに含まれ，近畿地方中心部は65，九州西端は72のワクに含まれる。

次に，大きなワクの中の小さなマス目100箇に，それぞれ，左上から横に，右下に向かって（左横書きの方式で），00から99までの，2桁の数字を与える。図には，黄色の数字で示してある。たとえば，中禅寺湖（栃木県）は37，浜名湖（静岡県）は50のマス目の中にある。

かくて，大きなワクに与えた2桁と，小さなマス目に示した2桁の数字とを組み合わせて，それぞれの5万分の1地形図の占める地域の番号が決まる。たとえば，中禅寺湖を含む小さなマス目（すなわち図名：男体山）の番号は，5637である（なお，56は，37のマス目を含む大きなワクに与えた数字）。同様に，四国室戸岬を含む5万分の1地形図（図名：室戸岬）の占める地域の番号は，7446である。

調査地点に番号を与える　—　調査地点の番号は，2組の数字を，中に小数点をおいて組み合わせることによって示される。甲は，地点を含む地形図の番号，乙は，地形図内の位置を示す数字である。後者は，次のように決定される。まず，地形図を占める地域を横・縦10等分し，計100箇の網目（経度1′30″，緯度1′）に分割する。それぞれの網目に，左上から横に，右下に向かって（左横書きの方式で），00から99までの，2桁の数字を与える。これが最初に述べた2400組の数字であり，すなわち，乙の，地形図内の位置を示す数字である。

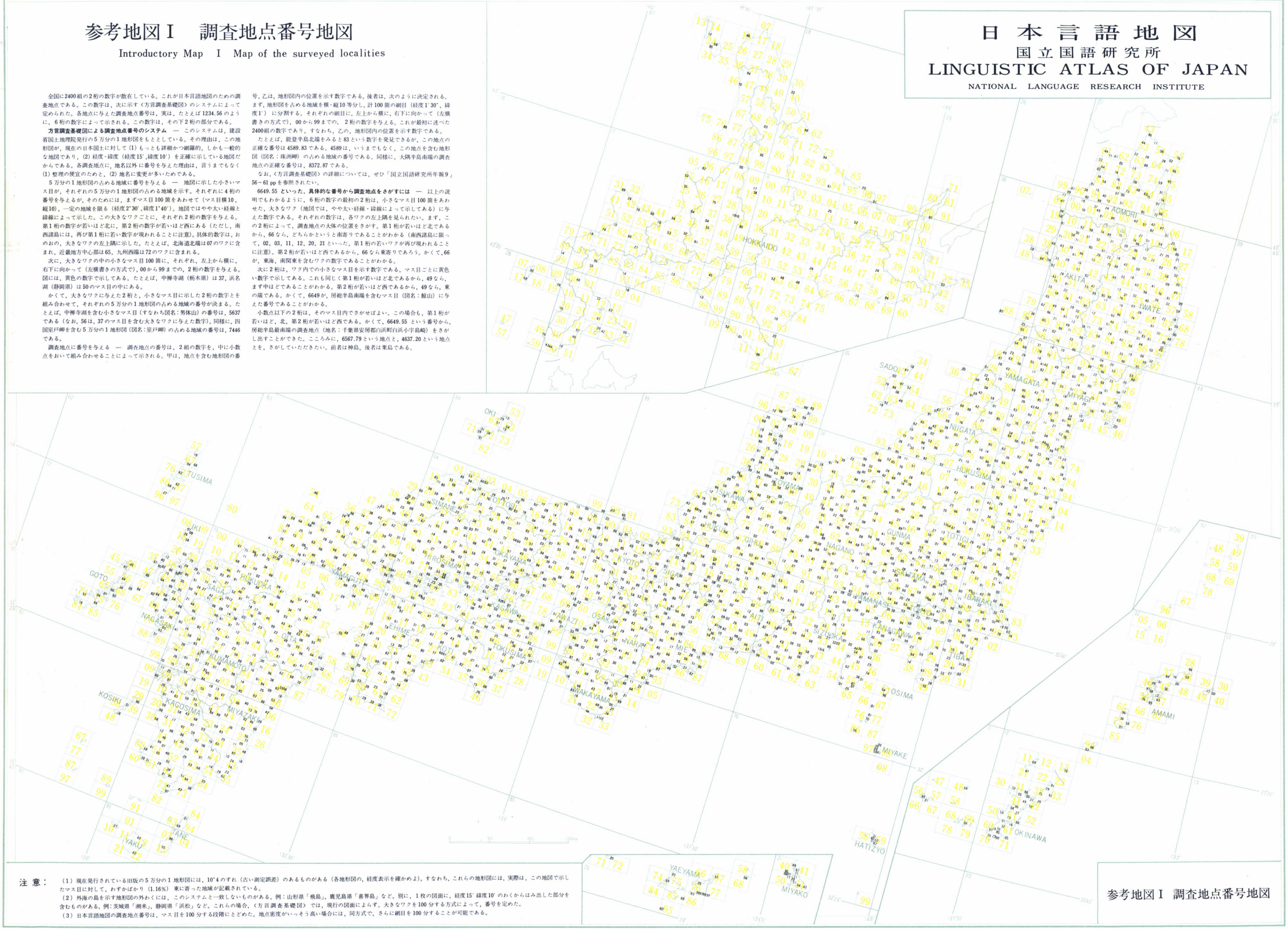
たとえば，能登半島北端をみると83という数字を発見できるが，この地点の正確な番号は4589.83である。4589は，いうまでもなく，この地点を含む地形図（図名：珠洲岬）の占める地域の番号である。同様に，大隅半島南端の調査地点の正確な番号は，8372.87である。

なお，〈方言調査基礎図〉の詳細については，ぜひ「国立国語研究所年報9」56～61ppを参照されたい。

6649.55といった，具体的な番号から調査地点をさがすには　—　以上の説明でもわかるように，6桁の数字の最初の2桁は，小さなマス目100箇をあわせた，大きなワク（地図では，やや太い経線・緯線によって示してある）に与えた数字である。それぞれの数字は，各ワクの左上隅を見られたい。まず，この2桁によって，調査地点の大体の位置をさがす。第1桁が若いほど北であるから，66なら，どちらかというと南寄りであることがわかる（南西諸島に限って，02，03，11，12，20，21といった，第1桁の若いワクが再び現われることに注意）。第2桁が若いほど西であるから，66なら東寄りであろう。かくて，66が，東海，南関東を含むワクの数字であることがわかる。

次に2桁は，ワク内での小さなマス目を示す数字である。マス目ごとに黄色い数字で示してある。これも同じく第1桁が若いほど北であるから，49なら，まず中ほどであることがわかる。第2桁が若いほど西であるから，49なら，東の端である。かくて，6649が，房総半島南端を含むマス目（図名：館山）に与えた番号であることがわかる。

小数点以下の2桁は，そのマス目内でさがせばよい。この場合も，第1桁が若いほど，北，第2桁が若いほど西である。かくて，6649.55という番号から，房総半島最南端の調査地点（地名：千葉県安房郡白浜町白浜小字島崎）をさがし出すことができた。こころみに，6567.79という地点と，4637.20という地点とを，さがしていただきたい。前者は神島，後者は粟島である。


HOKKAIDO
AOMORI
AKITA
IWATE
YAMAGATA
MIYAGI
SADO
NIIGATA
HUKUSIMA
TOTIGI
GUNMA
IBARAKI
SAITAMA
TIBA
TOKYO
KANAGAWA
YAMANASI
NAGANO
TOYAMA
ISIKAWA
HUKUI
GIHU
AITI
SIZUOKA
MIE
SIGA
KYOTO
NARA
OSAKA
WAKAYAMA
HYOGO
AWAZI
TOKUSIMA
KAGAWA
KOTI
EHIME
OKAYAMA
TOTTORI
SIMANE
HIROSIMA
YAMAGUTI
OKI
TUSIMA
IKI
HUKUOKA
SAGA
NAGASAKI
GOTO
OITA
KUMAMOTO
MIYAZAKI
KAGOSIMA
KOSIKI
TANE
YAKU
TOSIMA
MIYAKE
HATIZYO
AMAMI
OKINAWA
YAEYAMA
MIYAKO
0　50　100　150Km

注 意：（1）現在発行されている旧版の5万分の1地形図には，10″4のずれ（古い測定誤差）のあるものがある（各地形図の，経度表示を確かめよ）。すなわち，これらの地形図には，実際は，この地図で示したマス目に対して，わずかばかり（1.16%）東に寄った地域が記載されている。

（2）外海の島を示す地形図の外わくには，このシステムと一致しないものがある。例：山形県「飛島」，鹿児島県「喜界島」など。別に，1枚の図面に，経度15′緯度10′のわくからはみ出した部分を含むものがある。例：茨城県「潮来」，静岡県「浜松」など。これらの場合，〈方言調査基礎図〉では，現行の図面によらず，大きなワクを100分する方式によって，番号を定めた。

（3）日本言語地図の調査地点番号は，マス目を100分する段階にとどめた。地点密度がいっそう高い場合には，同方式で，さらに網目を100分することが可能である。

参考地図Ⅰ　調査地点番号地図